

いのちを守る福祉・防災都市東京へ! 都政に憲法を!

都民がつくる革新都政

2014年7月15日 発行 = 革新都政をつくる会 発行人・中山 伸 〒170-0005 豊島区南大塚 2-33-10 東京労働会館5F 電話 (5978) 4031 ホームページ: http://kakushintosei.org/ E-mail: info@kakushintosei.org (1部25円、送料は別途)



舛添都政の都政運営を検証し、都民の目線から考えるため開かれたシンポ=2014年7月7日

連続シンポジウム始まる

舛添都政はどこに向かうのか

Part 1 7.7 東京大破壊計画を暴く

いま、日本列島は、アベノミクスのもとで、かつての土建国家を想起させるような大規模公共事業が目白押しです。東京においても、今年2月に知事に就任した舛添知事は、石原・猪瀬都政の「都市再生」路線を継承、外郭環状道路や豊洲市場移転をおすすめするとともに、国際戦略特区など新たななまをいでの多国籍企業のための都市づくりにふみだそうとしています。

新たに誕生した舛添都政を表明している東京大改造計画をとりあげ、パネラーに都市問題の第一線で活躍されている鈴木浩福島大名誉教授、岩見良太郎埼玉大名誉教授をお招きして、玉大名誉教授をお招きしての住民の目線からの告発をおこなわれました。シンポは、安達智則和会医療福祉調査室室長がコーディネート。はじめに、鈴木名誉教授が、「混沌とした時代潮流から何を読み取るのか」と題して講演。人口減少・高齢社会の急速な進行や経済的・政治的低迷など混沌とした時代潮流が投げかける深刻な都市問題が示されるとともに、これを軌道修正する方としての地域再生の方向について問題提起がおこなわれました。

岩見名誉教授は、「アベノミクスで都市計画はどう変わるか」「新自由主義的都市改造を批判する」と題して、東京が、安倍政権のもとで、「成長戦略展開の場」に位置づけられ、国際戦略特区など、「世界で一番企業が活動しやすいビジネス環境」をつくりだすことに邁進していること

都議会:人権侵害発言問題一革新都政をつくる会声明

許されない性差別・人権侵害発言! 都議会としての徹底究明を求める

2014年7月1日 革新都政をつくる会

憲法の地方自治の精神にのっとり都民を代表する都議会の議場で、女性の人権をふみにじる暴言を言ひ、その議員の責任を放棄することは、断じて許されません。人権侵害・性差別に対して東京都議会がどのように向き合うかを曖昧にしたままの幕引きを許さず、徹底究明を強く求めます。

6月18日都議会第二回定例会で本会議一般質問中の女性議員に対して議場内の数名の議員から「早く結婚したほうがいい」「自分が産んでから…」などという人権侵害発言が浴びせられ、冷笑さえおこりました。この状況が報道されるや否や、都民をはじめ、全国、外国からも厳しい批判が寄せられ、いまも続いています。

差別発言が大きく報じられる中、発言から5日もたつて自民党の鈴木章浩都議が「早く結婚したほうがいい」という発言は自らのものだったと認め「謝罪」しましたが、議員辞職は拒んでいます。そして、「自分が産んでから…」などとの発言した議員は、いまだ名乗り出ていません。

世論は、人権侵害の暴言を行った議員が名乗り出て、都議会が問題を徹底究明することを求めています。鈴木章浩議員は本会議の場で謝罪し、辞職すべきです。

しかし都議会は、6月25日日本共産党都議団が提出した議員辞職をもとめる決議案や鈴木章浩議員の説明責任をもとめる動議を乱暴に拒み、自民、公明、民主、みんななどにより「信頼回復・再発防止に努める」とする「決議」を採択し、閉会しました。

この「決議」は、都民・国民、国際的な声に背を向けて、議会としての徹底究明を封じて人権侵害発言をあいまいにしたまま、幕引きを図ろうとするものであり断じて許すことができません。

同時に、舛添知事は「質問者が笑ったのでつられて笑った。やじは聴いていない」と言っていますが、男女平等共同参画社会の実現をめざす東京都の知事として女性の人権を否定する発言を許してはなりません。

あらゆる差別をゆるさないオリンピック精神に反する人権否定発言に対して、開催都市の都議会の在り方が問われています。

革新都政をつくる会は、この問題の幕引きを許さず、人権尊重の議会、女性の地位向上と男女平等をめざす都政の実現をめざし、さらに共同をひろげ、都民が主人公の都政へ転換するために奮闘する決意です。



(千代田区議)や、外郭環状道路・木密地域対策10年プロジェクトの特定整備路線における行政の強権的動き(道路住民運動関係者)、臨海救済のためのオリンピック会場計画(オリ・パラ都民の会)など、アベノミクスとオリンピックの名による開発の生々しい実態が報告されました。

連続シンポジウム part 2 舛添都政はどこへ向かうのか 日時: 9月6日(土) 午後 テーマ: 防災 会場: 四谷・主婦会館(プラザエフ) (JR『四谷駅』麹町口前)

6月に傘寿を迎え孫たちが祝ってくれた。子どもとき、国民学校で「お国のために戦って死ぬ」と教え込まれた。昭和20年、日本人男子の平均寿命は23.9歳。この年、戦争が終わった。1947年、新制中学校一年の時、日本国憲法が施行され、文部省編の副読本『あたらしい憲法のはなし』を最初に学んだ。「戦争放棄」の挿絵がまぶしかった。今も座右の書だ。生かされて80歳。この国が再び「戦争する国」へと動いた。安倍政権が憲法解釈を変更して集団的自衛権行使容認の閣議決定の暴挙。麻生副総理がうそぶいた「ナチスの手口を見習え」そのもの。ヒトラーは「世界平和」を唱えたが、安倍首相の「積極的平和主義」が見事に重なる。憲法改悪反対! 東京共同センターが「集団的自衛権行使反対」の意見書採択を求めて都議会へ陳情書を提出している。2020五輪をめざす東京都が「戦争する国」の首都となったら、日中戦争のさなか1940年東京五輪返上の再現となる。歴史の教訓を生かしてほしい。都議会ではまた、女性議員の発言に対する人権侵害の暴言問題がある。解明の幕引きを図ろうとしているが、これも五輪を前に世界から注視されている。いまこそ都議会のありようが問われている。(高)



